

A large, dynamic splash of water in black and white, flowing from the top left towards the bottom right, creating a sense of movement and fluidity. The water droplets are captured in mid-air, with some forming a crown-like shape at the top.

ビルコート エス
BUILCOAT S

ゴムアスファルト系塗膜防水

vol. **4**

BUILCOAT S

— ビルコートエス —

ビルコートSは、防水材として定評のあるアスファルトに、ゴム弾性を付与することで耐久性をさらに向上させた塗膜系防水材です。

JIS A 6021 (建築用塗膜防水材 ゴムアスファルト系)に適合する塗膜物性が得られます。反応硬化により、短時間で硬化し塗布回数を減らすことができます。



ビルコートSの特長

✓ 安全で無公害です

使用する材料はエマルジョン系で、煙、臭気などの問題や引火、火傷、中毒の危険がなく、換気のよくない屋内作業空間などでも安全に作業を行えます。また、主要材料はホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆の認定を受けているため、屋内工事においても安心して使用できます。

✓ 施工性が優れています

狭くて施工のしづらい箇所や複雑な形状をした部分にも、塗布するだけで容易に防水層を形成でき、しかも密着性に優れています。

✓ 厚塗りが可能です

ゴムアスファルトエマルジョンの水分と硬化剤が反応することで短時間で硬化し、厚塗りが可能です。工期短縮が図れます。



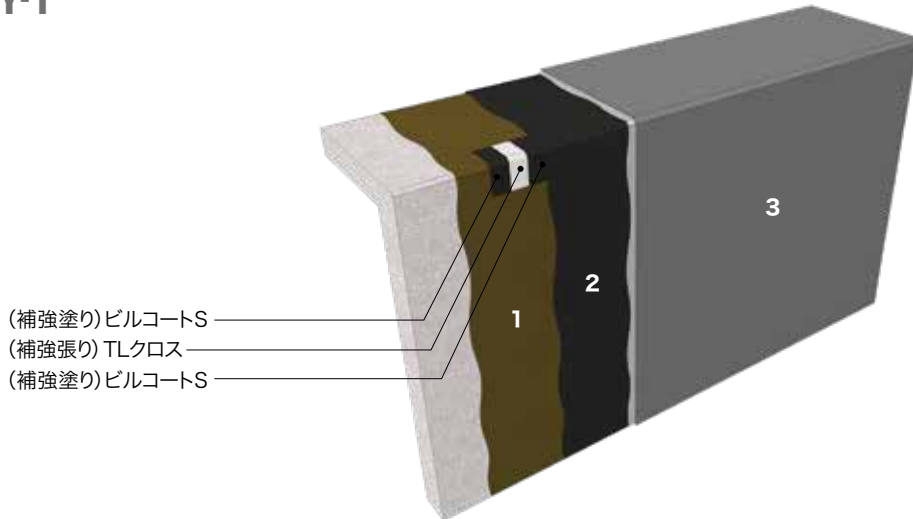
官公庁仕様

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

【公共建築工事標準仕様書 令和4年版 9章 ゴムアスファルト系塗膜防水】

【公共建築改修工事標準仕様書 令和4年版 3章 ゴムアスファルト系塗膜防水】

Y-1



Y-1^{(注)1}

(単位:/m²)

Y-1		Y-1 立上り		Y-1 平面部		
1	プライマー吹付けまたは塗り	0.2kg	水性プライマーC(5倍希釈)	0.2kg	水性プライマーC(5倍希釈)	0.2kg
2	ゴムアスファルト系塗膜防水材吹付けまたは塗り	7.0kg (注)2	ビルコートS (ビル増粘剤添加)塗り※3	5.0kg	ビルコートS塗り※3	5.0kg
3	保護緩衝材※1	—	GSプロテクター (GSプロテクターセメント)	— 0.2kg	(別途保護※2)	—

※1 地下外壁防水の保護に使用する保護緩衝材の材質は補強クロス付ポリエチレン発泡材とし、厚さ5mm以上のものとします。

※2 Y-1は外壁を想定した仕様のため、平面部では保護モルタルや保護コンクリートなどが一般的となります。

※3 ビルコートSを2回、3回に分けて塗布することも可能です。

2回に分ける場合…工程①:4.0kg、②:1.0kg または、工程①:3.0kg、②:2.0kg (単位/m²)

3回に分ける場合…工程①:2.0kg、②:2.0kg、③:1.0kg または、工程①:3.0kg、②:1.0kg、③:1.0kg (単位/m²)

下層の硬化を確認した後に次の工程を行ってください。(詳細は6ページ「硬化剤の選定」を参照)

*埋戻しの注意事項(日本建築学会 建築工事標準仕様書[JASS8]より抜粋)

・埋戻しは山砂とし、がれきなどは使用しないでください。

・埋戻し後、土砂の圧密沈下により保護緩衝材と同時に防水層が引きずられることのないように、埋戻しは数回に分け、散水しながら行ってください。

注意事項

(注)1. Y-1、Y-2は地下外壁防水に適用します。

2. 表中のゴムアスファルト系防水材塗りの使用量は、固形分60%(質量)である材料の場合を示しており、固形分がこれ以外の場合、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算します。詳細は右表「ビルコートS使用量」をご参照ください。

・立上り部にはビルコートSにビル増粘剤を添加して使用してください。

・水性プライマーCは当日施工を行う部分のみ塗布してください。詳細は6ページの「下地別適用プライマー」をご参照ください。

・コンクリート打継ぎ部および著しいひび割れ箇所はU字型にハツリ、シーリング材(GCライン)を充填した上、幅100mm程度の補強布(TLクロス)、ビルコートS(上下塗り 合計約2.0kg/m²)を用いて補強塗りを行ってください。

出入隅部分は、幅200mm程度の補強布(TLクロス)、ビルコートS(上下塗り 合計約2.0kg/m²)を用いて、補強塗りを行ってください。

・屋外でビルコートSの塗り重ねが翌日となる場合は、プライマーCR(0.1kg/m²)を塗布してください。

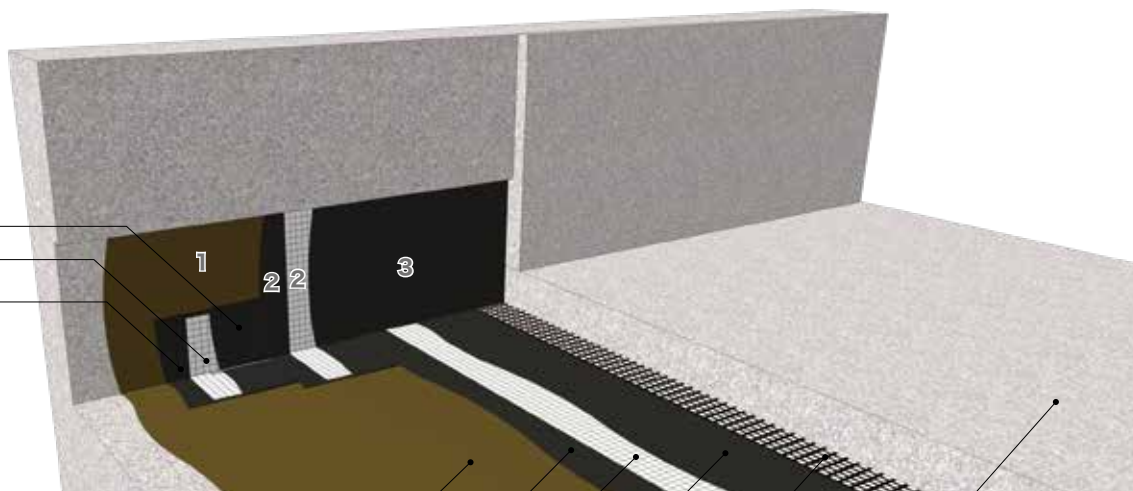
・GSプロテクターは、防水層の硬化乾燥を確認後設置してください。

設置には、GSプロテクターセメント(0.2kg/m²)を塗布・乾燥後、突付けで貼り、継目に粘着テープを貼ってください。

・GSプロテクターの設置は防水層施工後、1日以上養生が必要です。ビルコートSを2回以上に塗布した場合は2日以上養生が必要です。

Y-2

(補強塗り)ビルコートS
 (補強張り) TLクロス
 (補強塗り)ビルコートS



Y-2 (注)1

(単位:/m²)

Y-2	Y-2 平面部	Y-2 立上り
1 プライマー塗り 0.2kg	水性プライマーC(5倍希釈) 0.2kg	水性プライマーC(5倍希釈) 0.2kg
2 ゴムアスファルト系塗膜防水材塗り 補強布張り 4.5kg (注)2・3	ビルコートS BCマットPC 2.0kg	ビルコートS(ビル増粘剤添加) BCマットPC 2.0kg
3 ゴムアスファルト系塗膜防水材塗り	ビルコートS 1.3kg	ビルコートS(ビル増粘剤添加) 1.3kg
4 絶縁用シート -	絶縁クロス1000または絶縁シート -	-
5 保護コンクリートまたは 保護モルタル(注)4 -	-	-

注意事項

(注)1. Y-1、Y-2は地下外壁防水に適用します。

- 表中のゴムアスファルト系防水材塗りの使用量は、固形分60%(質量)である材料の場合を示しており、固形分がこれ以外の場合には、所要塗膜厚を確保するように使用量を換算します。詳細は右表「ビルコートS使用量」をご参照ください。
- 塗り回数は主材料の製造所の仕様によります。
- Y-2における保護層(工程4および工程5)の適用は特記によります。なお、保護モルタルとした場合は、工程4の絶縁シートを省略します。

- 立上り部にはビルコートSにビル増粘剤を添加して使用してください。
- BCマットPCの重ね幅は50mm以上とします。
- 水性プライマーCは、当日施工を行う部分のみ塗布してください。詳細は6ページの「下地別適用プライマー」をご参照ください。
- 納まりが複雑な場合は、BCマットPCの代わりにTLクロスをご使用ください。
- 出隅および入隅は、幅200mm以上の補強布(TLクロス)、ビルコートS(上下塗り 合計約2.0kg/m²)を用いて補強塗りを行ってください。
- ビルコートSの塗り重ねは、屋内で7日以上開いた場合は水性プライマーC原液(0.2kg/m²)を塗布し、日光の当たる環境で翌日塗り重ねる場合はプライマーCR(0.1kg/m²)を塗布してください。

ビルコートS使用量

ビルコートS(固形分84%)

$$Y-1: 7.0\text{kg}/\text{m}^2 \times 0.6 \div 0.84 = 5.0\text{kg}/\text{m}^2$$

$$Y-2: 4.5\text{kg}/\text{m}^2 \times 0.6 \div 0.84 = 3.3\text{kg}/\text{m}^2$$

材料一覧

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
 ※シート類につきましては、納品時に一定の割合で1ヵ所切断している製品(2ピース品)が混在しておりますので、ご了承ください。

種類	品名	規格	備考
防水材	ビルコートS	17kg/缶 固形分84%	ゴムアスファルトエマルジョン JIS A 6021 建築用塗膜防水材 F☆☆☆☆
	水系用硬化剤(標準)/速硬化/夏用	0.3kg/缶×4/箱 (配合比 主剤 17kg/缶:硬化剤 0.3kg/缶)※2	
副資材	ビル増粘剤	5kg/缶	ビルコートSの粘度調整用※1 F☆☆☆☆
	BCマットPC	1m×100m巻	防水層補強用ポリエステル不織布
	GSプロテクター	1m×25m巻 厚さ:6mm	防水層保護緩衝用ポリエチレン発泡体 (表面材ポリエチレンクロス)
	GSプロテクターセメント	17kg/缶	GSプロテクター貼付用 アクリル樹脂エマルジョン系接着剤
	水性プライマーC	18kg/缶	アクリル水性プライマー F☆☆☆☆
	プライマーCR	3kg/缶	溶剤型合成ゴム系プライマー F☆☆☆☆
	TLクロス200	200mm×50m巻 5巻/包	合成繊維メッシュ 受注生産品
	TLクロス1000	1m×50m巻	合成繊維メッシュ
	絶縁クロス1000	1m×100m巻	ポリプロピレン製フラットヤーンクロス
	絶縁シート	1m×100m巻	ポリエチレン製絶縁用フィルム
	ガムロンフォルトM/B	各1m×8m巻	地下防水用改質アスファルトシート
	GCライン	330ccカートリッジ 850ccジャンボカート 各10本/箱	変成シリコン系シーリング材

※1 詳細は下表「防水材の配合」をご参照ください。
 ※2 詳細は6ページの表「硬化剤の選定」をご参照ください。



防水材の配合

	ビルコートS(17kg/缶)	水系用硬化剤(0.3kg/缶)	ビル増粘剤(5kg/缶)
平面部	1缶	1缶	—
立上り部	Y-1(地下外壁)	1缶	300~800g※
	Y-2(室内立上り)	1缶	100~300g

- ・平面部用の配合は、ビルコートSと水系用硬化剤を攪拌機で約20秒間均一に攪拌してください。
- ・立上り用の配合は、ビルコートSと水系用硬化剤を攪拌機で約10秒間均一に攪拌後、ビル増粘剤を添加し、攪拌機で約20秒間攪拌してください。
- ・必要以上に長く攪拌すると材料が不安定になることがありますので、上記時間を目安に攪拌してください。
- ・攪拌機は1,300回転/分以上の高速攪拌機で、攪拌羽根はリシン形状のものをご使用ください。
- ・ビル増粘剤の配合量は上記表を目安とし、施工環境に応じて調整してください。(※低温時においては最大400gまで)

製品の取扱いと施工についての注意事項

下地について

- 下地コンクリートは打設後4週間を目安とし、乾燥状態を確認してください。
- 下地の粉塵やレイタンス、油脂分、型枠脱型用剥離剤などは防水層の接着を阻害するため、ディスクサンダーや金ブラシなどで除去し、必要に応じ樹脂モルタルなどで平滑に仕上げてください。
- 下地の突起や型枠の脱着等はディスクサンダーなどで除去し、平滑に仕上げてください。
- 下地のジャンカや表面のす穴は樹脂モルタルで平滑に仕上げてください。
- スラブの入隅は直角。出隅は3～5mmの面取りが標準で、通り良く仕上げてください。
- ドレン、貫通パイプ等は強固に取り付け、温水パイプはスリーブ管を設置してください。
- コンクリートの打ち継ぎ部や新しいひび割れは、U字型にはつり、GCラインを充填した上、幅100mm程度のTLクロスとビルコートSで補強塗りしてください。

材料の保管について

- ビルコートSは水性です。凍結させないようご注意ください。
- 材料は、5～40℃で直射日光の当たらない屋内に保管してください。やむを得ず屋外に置く場合には、必ずシートを掛けて保管してください。
- BCマットPC、TLクロス等の繊維製品は、水に濡れないように保管してください。

施工時の注意点

- 降雨や降雪、強風、気温が著しく低いなど気象条件の悪いときは施工を避けてください。
- 施工完了後、硬化前に降雨や降雪にあわないようにしてください。また、施工中や施工後、塗膜が硬化するまでは、他業者による損傷を防止するため立ち入らないようにしてください。
- 通風の無い室内や高湿度の条件では硬化乾燥を良くするために、送風機等を用いて養生してください。
- 屋外で施工間隔が翌日になる場合は、塗り継ぎ部にプライマーCRを塗布してください。
- 小分けにして使う場合は、ビルコートSを事前に十分に均一混合してください。
- BCマットPCは浮きやしわにならないよう、ビルコートSを十分に含浸するよう流し貼りしてください。また、重ね代は50mm以上としてください。
- 屋内仕様で立上りを保護モルタル仕上げとする場合は、原則的にメタルラス類の端部を金物を用いて固定してください。
- 施工環境(直射日光等)や下地環境(ジャンカやピンホール等)によって防水層にフクレが生じることがあります。フクレを軽減するには、遮光養生、リグレー・ネオ、リグレーエポなどで下地を平滑にするなどの補修を行ってください。
- 水張り試験を実施する際は、施工終了後48時間以上を目安とし、完全に硬化乾燥していることを確認してから行ってください。

硬化剤の選定

硬化剤(使用の条件)	温度	可使時間	硬化時間(2kg/m ² の硬化)
水系用硬化剤 (標準通年タイプ)	5℃	180分	24時間
	23℃	30分	8時間
	35℃	10分	5時間
水系用硬化剤夏用 (液温25℃以上)	23℃	50分	18時間
	35℃	35分	6時間
水系用硬化剤速硬化 (液温15℃未満)	5℃	40分	12時間
	23℃	15分	5時間

・表は標準配合での時間です。増粘剤併用の場合には、上記時間より早くなります。
 ・硬化時間は次工程に移るための目安時間です。防水性能を発揮する時間ではありません。

・ 部分は推奨温度域です。

・混合後の可使時間は、施工環境によって異なりますが約30分が目安です。

・水系用硬化剤夏用は、液温が20℃未満になると、硬化不良を起こす可能性がありますので、夏季以外は使用できません。

・密閉された室内や高温状態の箇所では、硬化乾燥を良くするため、養生期間中は送風機等を使用してください。

下地別適用プライマー

下地種類		適用プライマー	標準塗布量
コンクリート・モルタル		水性プライマーC 5倍液 配合比(重量) 水性プライマーC:水=1:4	0.2kg/m ²
金属 (アルミ・ステンレス・鋳物・鉄部など)		プライマーCR	0.1kg/m ²
塩ビ配管		プライマーCR	0.1kg/m ²
塗り継ぎ	屋外施工 (翌日施工する場合)	プライマーCR	0.1kg/m ²
	屋内施工 (翌日施工する場合)	プライマーCR	0.1kg/m ²
	屋内施工 (7日以上間が空いている、表面に埃等が付着している場合)	水性プライマーC(原液)	0.2kg/m ²

田島ルーフィング株式会社
<https://tajima.jp>

東京支店

〒101-8579 千代田区外神田4-14-1
TEL 03-6837-8888

大阪支店

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-10-5
TEL 06-6443-0431

札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西6-2-6
TEL 011-221-4014

仙台営業所

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35
TEL 022-261-3628

北関東営業所

〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-49-8
TEL 048-641-5590

千葉営業所

〒260-0032 千葉市中央区登戸1-26-1
TEL 043-244-3711

横浜営業所

〒231-0012 横浜市中区相生町6-113
TEL 045-651-5245

多摩営業所

〒190-0022 立川市錦町1-12-20
TEL 042-503-9111

金沢営業所

〒920-0025 金沢市駅西本町1-14-29
TEL 076-233-1030

名古屋営業所

〒460-0008 名古屋市中区栄1-9-16
TEL 052-220-0933

神戸営業所

〒650-0023 神戸市中央区栄町通6-1-17
TEL 078-330-6866

広島営業所

〒730-0029 広島市中区三川町2-10
TEL 082-545-7866

福岡営業所

〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35
TEL 092-724-8111

カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
- ・各仕様ページの工程図は、工程を分かりやすく示すことを目的としたイメージ図です。下地や材料の形状・寸法・色は実際と異なります。